

◆ 今週のコメント

- ・ 新型インフルエンザ(A/H1N1)患者の集団感染(クラスター)の第30週以降の報告数は、京都府(京都市を含む。), 全国ともに増加しています。
新型インフルエンザによる全国の入院患者数は、8月12日～18日で86人で、そのうち基礎疾患を有する者等が36人です。また、8月24日現在の全国の死亡者数は、3人となっています。
- ・ RSウイルス感染症の報告は1例ですが、4週連続の報告となっています。年齢は0～5ヶ月です。

◆ 今週のトピックス:<インフルエンザ>

インフルエンザの定点当たり報告数は1.25(85例)で、例年、季節性インフルエンザで使用している流行開始の目安(定点当たり報告数1.0)を超え、インフルエンザサーベイランス事業開始後、最も早い時期での急増となっています。
詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数報告の感染症

ありません。

新型インフルエンザ(A/H1N1)情報

- ・ 集団感染(クラスター)件数の推移

	第30週	第31週	第32週	第33週
京都府	3	7	21	36
全国	172	335	554	662

- ・ 入院者数 全国:86人, うち基礎疾患を有する者等:36人

定点報告の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	1.25	85
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	1.98	81
	② ヘルパンギーナ	0.78	32
	③ 手足口病	0.54	22
	④ 突発性発しん	0.39	16
	⑤ 流行性耳下腺炎	0.34	14
眼科	流行性角結膜炎	0.10	1

病原体情報

(検体名は、紙面の都合上、鼻咽頭ぬぐい液をNP、糞便をFC、髄液をSF、尿をURと略す。)

検出病原体(報告数)	臨床診断名(採取週)	検体名	検出病原体(報告数)	臨床診断名(採取週)	検体名
ポリオウイルス1型(1)	かぜ症候群(第21週)	NP	黄色ブドウ球菌(3)	かぜ症候群(第23週, 第22週×2)	NP×3
A群ロタウイルス(3)	感染性胃腸炎(第21週×3)	FC×3	A群溶血性レンサ球菌(7)	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(第22週×2) かぜ症候群(第23週×2, 第22週×2, 第21週)	NP×7
アデノウイルス1型(1)	かぜ症候群(第22週)	NP	B群溶血性レンサ球菌(1)	かぜ症候群(第23週)	NP
アデノウイルス2型(3)	かぜ症候群(第22週, 第21週) 感染性胃腸炎(第22週)	NP×2 FC	肺炎球菌(10)	かぜ症候群(第23週×3, 第22週×6, 第21週)	NP×10
ヘルペスウイルス1型(1)	かぜ症候群(第21週)	NP	インフルエンザ菌b型以外(3)	かぜ症候群(第23週, 第22週×2)	NP×3

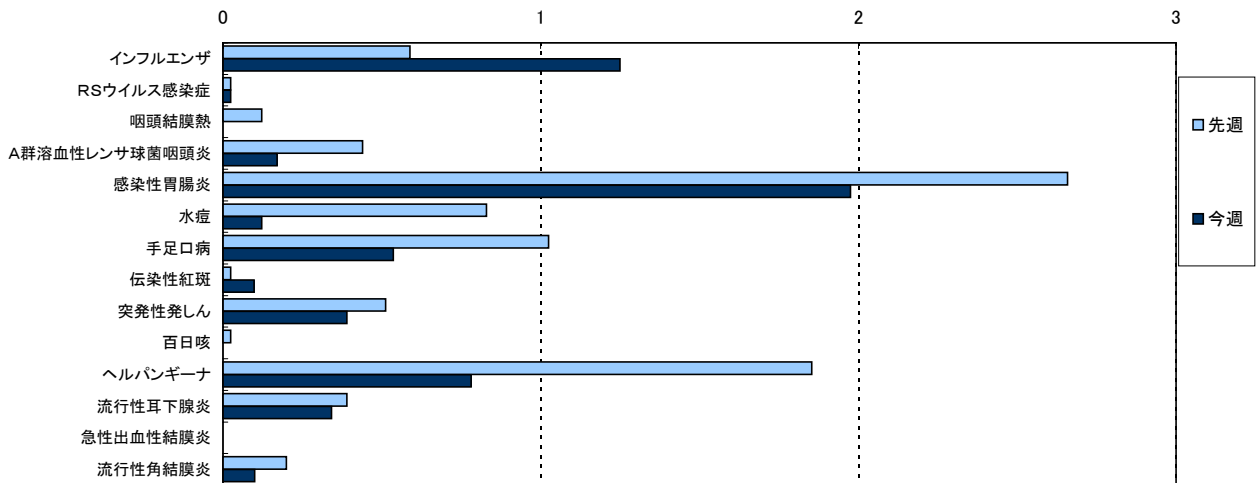
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス:<インフルエンザ>

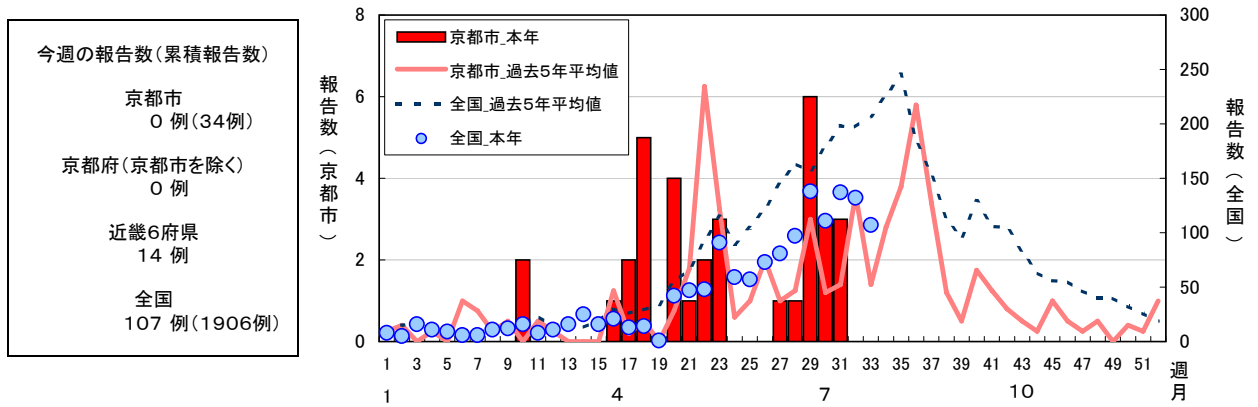
(注) 京都市のデータは、平成21年8月21日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。
また、本情報での患者数は、届出医療機関所在の保健所での集計で、患者の住所を示すものではありません。
病原体情報は、病原体定点等から京都市衛生公害研究所へ搬入された検体から検出された病原体です。

◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第33週)と先週(第32週)の定点当たり報告数の比較

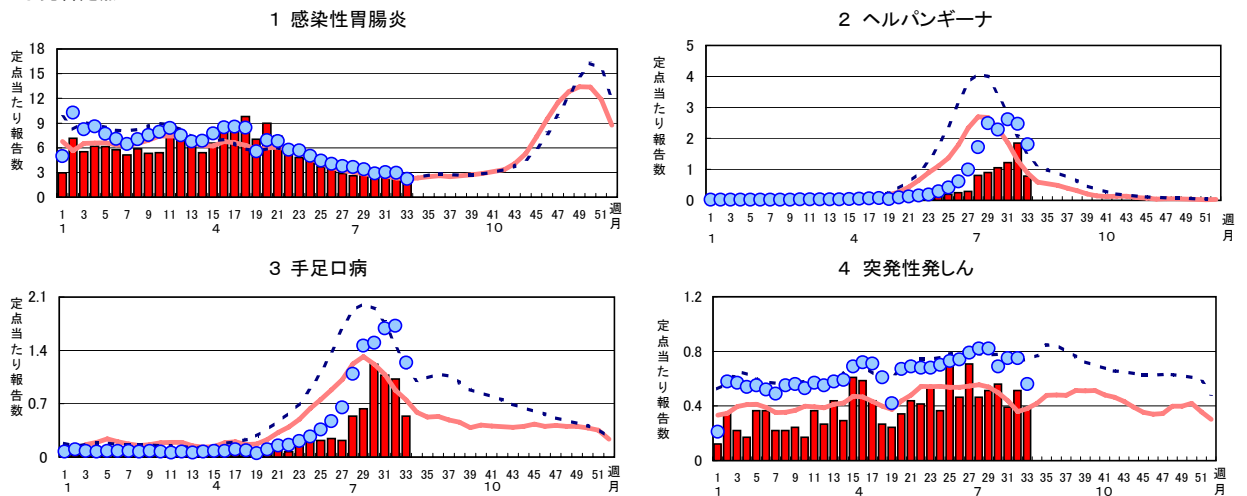


2 腸管出血性大腸菌感染症(三類感染症)の推移

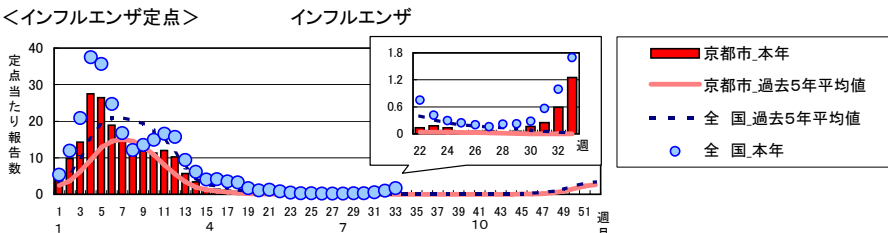


3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<インフルエンザ定点>



第33週(8月10日～8月16日)のトピックス: <インフルエンザ>

インフルエンザの定点当たり報告数は1.25(85例)で、例年、季節性インフルエンザで使用している流行開始の目安(定点当たり報告数1.0)を超え、インフルエンザサーベイランス事業開始後、最も早い時期での急増となっています。

(※ 定点当たり報告数1.0は、インフルエンザの流行開始の目安として使用される値で、例年第49週～52週(11月末～12月)頃に超えています。)

年齢階級別では、過去5年平均に示すように、例年は、本市、全国ともに10歳未満の報告が約半数を占めていますが、第30週以降は、10歳代から20歳代の報告が本市では73.9%、全国では55.4%と高くなっています。

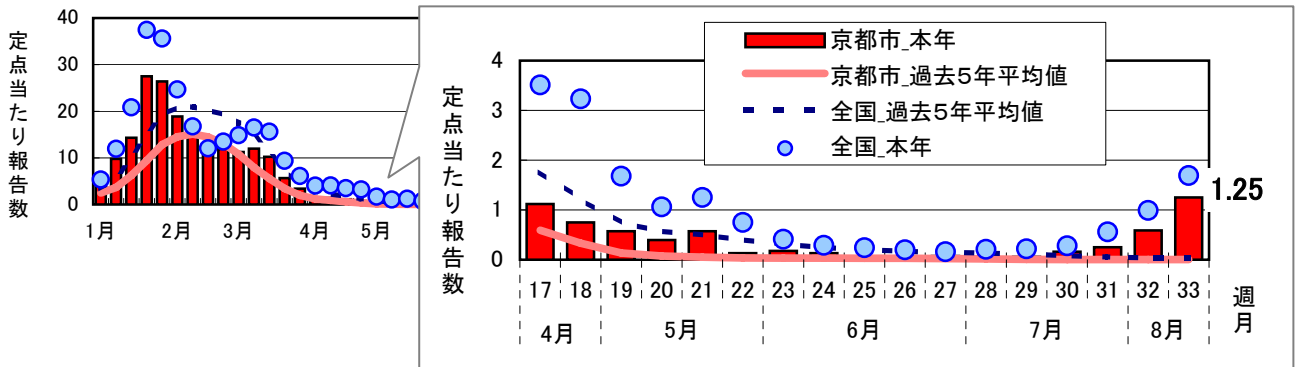
行政区別にみると、すべての行政区(11)から報告があり、4行政区(北、上京、中京、東山)で定点当たり報告数が1.0を超えています。

なお、第33週に集団発生の診断目的等のために京都市衛生公害研究所に搬入されたインフルエンザウイルス(36例)の型は、すべてAH1pdm(新型)となっています。

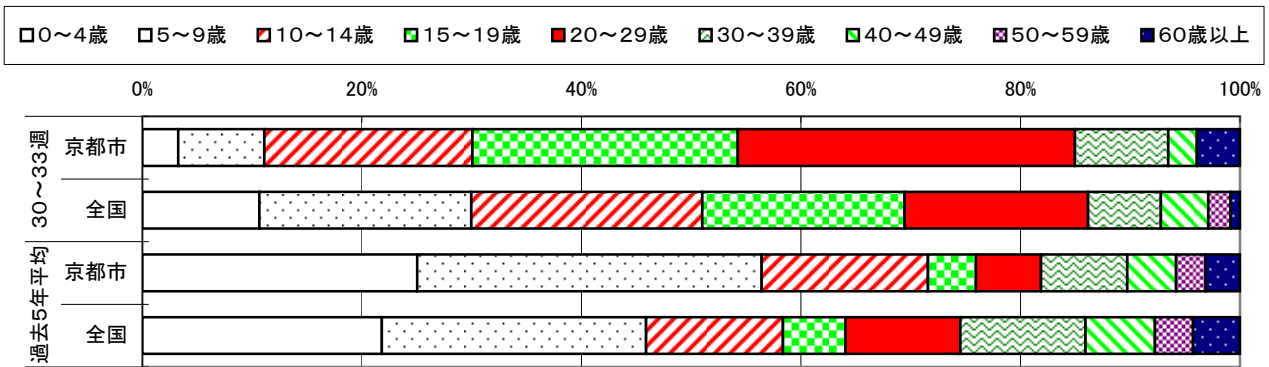
今後、更なる感染の拡大が予想されますが、特に、慢性呼吸器疾患や慢性心疾患等の基礎疾患を有する方や妊娠中の方、乳幼児等、重篤化するリスクが高い方々は、注意が必要です。

※第30週以降、インフルエンザの報告には、「新型インフルエンザ(A/H1N1)」が含まれています。

本市及び全国の定点当たり報告数 推移



年齢階級別割合



行政区別定点当たり報告数の推移

